

2005年12月、米国NSF（国立科学財団）の国家科学審議会は、NSFの今後の方針を示す長期ビジョン「2020 VISION」を発表した。報告書では、①先端的研究の推進、②米国市民の科学技術潜在能力の開拓、並びに、外国人学生・研究者にとっての米国の魅力の維持、③初等中等教育段階の生徒への科学教授法の開発と機関連携に基づく実践、④聡明な人材と先端機器・設備の提供、⑤米国が優越性を保つためのNSFの財源と人的資源の維持、の5つのビジョン、並びに、優先課題が掲げられた。併せて、財政制約の中での第一ステップとして短期的目標と方策が挙げられた。

このビジョン作成の背景には、科学技術分野においても国際化が進む中で、国の厳しい財政事情にもかかわらず米国が優位性を保つには、適切な優先順位付けと戦略が必須であるとの認識がある。

## トピックス 7 米国 NSF の長期ビジョン「2020 VISION」

2005年12月28日、米国NSF（国立科学財団）の方針決定を行う国家科学審議会は、NSFの今後の方針を示す長期ビジョン「2020 VISION」を発表した。NSFは、科学工学分野の研究及び教育の支援を専ら行う政府機関であり、米国の基礎研究のあり方に大きな影響力を持つ。

この報告書では、科学技術の急速な発展と国際化が進展する中でのNSFの役割として、次の5つのビジョンを掲げている。

- (1) 変革を起こすような先端的な基礎研究を推進する。
- (2) すべての米国市民、特に科学技術活動への参加が進んでいない集団の能力を開拓するとともに、継続して外国人学生・研究者を米国に引きつける。
- (3) 初等中等教育段階の生徒への新しい科学教授法を開発し、学校、博物館、水族館、大学間の連携によって効率的に実践する。
- (4) 聡明な頭脳を持つ人材を提供する。併せて、知識のフロンティアを開拓し、これまでの認識を変えてしまうような画期的な発想を展開させるために必要な機器・設備を提供する。
- (5) 学習、発見、イノベーションという国家にとって重要な活動において、米国が優越性を保つために有効な機関であり続ける。

また、優先課題として、①科学的展開の可能性と潜在的利益が大きい基礎的分野における優越性の維持、②国際級の科学技術人材の維持と市民の科学リテラシーの涵養、③先端機器整備など基礎研究推進のための研究基盤の構築、が挙げられている。

さらに、昨今の財政制約を踏まえた上で、第一ステップとなる短期目標と方策が示されている。短期目標は、①ビジョンや優先課題を踏まえた戦略的計画の策定、②評価システムの改善等による先端的研究の支援強化、③学校、博物館、大学の協同による科学・技術・工学・数学教育の効果の増大、④大学研究者の多様化支援であり、実現の

ための方策は、①先端的研究のための基盤整備、②途上国を含む国際連携及び機関連携、③NSFの優れた人材と管理システムの維持である。

NSFは、2001 - 2006年の戦略的計画の中で、people, ideas, toolsを目標として掲げ、続く2003 - 2008年の計画においてはorganization excellenceを加えている。今回のビジョンは、これら現方針を踏襲するものとなっている。

このビジョンは、上院の2006年度予算ヒアリングにおける要望を受けて作成された。その背景には、国の厳しい財政事情のもとでは、将来を見通した上で有望な科学技術を支援する必要がある、との認識がある。さらに、財政事情に加え、科学技術の国際化により研究の場が米国外に移ることになれば、米国の競争優位性を低下させるおそれがあり、優位性を保つためには、適切な優先順位付けと戦略が必須である、とこの報告書で述べられている。

2006年2月に発表された大統領予算教書においては、NSFの2007年度予算要求額として前年比7.9%増の60億ドルが示された。これは、ブッシュ大統領が主唱する競争力イニシアチブにおいて、物理学と工学の基礎研究予算の拡充、特にNSF、DOE（エネルギー省）科学局、NIST（国立標準技術研究所）の3機関の基礎研究費を10年間で倍増する計画が示されたことによるものであり、このビジョンの達成を後押しする状況となっている。

NSFは、併せて科学技術資源のデータ収集・分析も行っており、2006年2月には科学工学指標2006を発表している。

### 参 考

2020 VISION for National Science Foundation :  
<http://www.nsf.gov/pubs/2006/nsb05142/nsb05142.pdf>